

令和2年度 事業報告書



学校法人武蔵野音楽学園

目 次

I 学校法人武蔵野音楽学園の概要

1 建学の精神・教育方針	1
2 沿革	1
3 法人本部・設置学校等	2
4 役員等	3
5 教職員数一覧	3

II 事業の概要

令和2年度の重点目標

1 法人

(1) 管理運営

ア. 第3期大学機関別認証評価受審準備	4
イ. 武蔵野音楽大学ガバナンス・コードの策定	4
ウ. 施設・設備の整備	4
エ. 防災体制の整備	4

(2) 広報活動

ア. 学生・生徒・園児ならびに附属音楽教室生徒の募集活動に係る広報	4
イ. プレスリリース	4
ウ. 公式ウェブサイトによる教育研究活動等の公開情報の充実	5
エ. 公式SNS(Facebook、Twitter、LINE@、Instagram)の効果的な運用	5
オ. 広報誌「MUSASHINO for TOMORROW」の発行	5

(3) 学生・生徒・園児募集

ア. 大学	5
イ. 附属高等学校	5
ウ. 幼稚園（第一・第二・武蔵野各幼稚園）	6
エ. 附属音楽教室（江古田・入間・多摩音楽教室）	6

(4) SD活動	6
----------	---

2 大学

(1) 教育研究

ア. 教育改革

a. 音楽学部入学定員の変更	6
b. 完成年度を迎えるカリキュラムの検証による問題点の把握及び改善	6
c. 成績評価基準の厳正化	6
d. GPA活用範囲の検討	6
e. 学修成果の可視化を実現する学修ポートフォリオの導入準備	6
f. シラバスの充実	7

g. 学生による授業評価アンケート（クラス授業）の実施と結果の検証	7
h. 入学前教育の充実	7
i. プレカレッジプログラムの検討	7
j. 科学研究費助成事業への申請の促進及び研究倫理の周知徹底	7
イ. 学修支援	
a. 履修系統図・科目ナンバリングの設定準備	7
b. 留学生に対する日本語能力水準の向上に向けた教育の充実及び教育内容や 習熟度別クラス編成の検討	7
c. 練馬区教育委員会との連携によるプレ実習の実施	7
d. 教務システム等の機能の拡充	7
ウ. 学生支援	
a. 福井直秋記念奨学金制度の検討	8
b. 就職支援の充実	8
c. 留学生支援体制の整備	8
d. 障害のある学生への支援体制の整備	8
e. 問題を抱える学生への支援体制の整備	8
f. 学寮の生活環境整備に係る問題点の把握と改善	8
g. 卒業生向けアンケート実施要領の検討	8
h. 休学者・退学者の防止に対する支援・指導の強化	8
i. 学生意見・要望の把握方法及び意見・要望への対応要領の再構築	8
j. 避難訓練、防災・防犯訓練等の実施	8
エ. F D活動	9
オ. 図書館・楽器ミュージアム・学園記念室運営	
a. 図書館	9
b. 楽器ミュージアム	10
c. 学園記念室	10
カ. 参考データ（大学）	11
(2) 演奏活動	15
(3) 社会貢献・地域連携	16
(4) 特記すべき取り組み	17

3 附属する学校等

(1) 附属高等学校	18
(2) 幼稚園（第一・第二・武蔵野各幼稚園）	18
(3) 附属音楽教室（江古田・入間・多摩各音楽教室）	19
(4) パルナソス多摩	19

Ⅲ 財務の状況

令和2年度決算の概要	20
------------	----

I 学校法人武蔵野音楽学園の概要

1 建学の精神・教育方針

本学園は、建学の精神を「〈和〉のこころ」と定め、教育方針として「音楽芸術の研鑽」と「人間形成」を掲げている。

この建学の精神と教育方針に基づき、音楽芸術についての深い学識と技術を教授し、かつ人間性豊かな人材を育成して、広く我が国の文化芸術の振興に寄与することを目的としている。

加えて、礼儀 (Propriety)、清潔 (Purity)、時間厳守 (Punctuality) の3つを「3P主義」と呼び、教職員、学生が日々実践すべき生活の規範としている。

2 沿革 (附属高等学校及び幼稚園を除く)

昭和 4(1929)年	武蔵野音楽学校設立認可
昭和 7(1932)年	財団法人及び専門学校令による武蔵野音楽学校設立認可
昭和17(1942)年	教員無試験検定取扱い許可学校に指定
昭和19(1944)年	私立専門学校整備に関する文部省専門教育局長通達により「武蔵野女子音楽学校」に校名変更
昭和21(1946)年	男子生徒入学再開
昭和24(1949)年	武蔵野音楽大学音楽学部設置認可
昭和25(1950)年	短期大学部第2部設置
昭和26(1951)年	財団法人武蔵野音楽学校から学校法人武蔵野音楽学園へ組織変更、大学別科 設置認可
昭和27(1952)年	短期大学部第1部設置
昭和28(1953)年	大学及び短期大学部に専攻科設置
昭和29(1954)年	教育職員免許法に定める課程 (教職課程) 認定
昭和33(1958)年	音楽学部第2部設置
昭和35(1960)年	江古田キャンパスにコンサートホール「ベートーヴェンホール」竣工
昭和39(1964)年	大学院音楽研究科修士課程設置 (器楽専攻、声楽専攻、作曲専攻)
昭和40(1965)年	音楽学部に音楽学学科及び音楽教育学科設置
昭和42(1967)年	江古田キャンパスにコンサートホール「モーツァルトホール」竣工、「武蔵野音楽大学楽器博物館」開館
昭和44(1969)年	大学院音楽研究科修士課程に音楽学専攻、音楽教育専攻設置
昭和46(1971)年	入間キャンパス 開設
昭和51(1976)年	音楽学部入間キャンパスにて授業開始、入間キャンパスに「図書館・楽器博物館棟」竣工
昭和54(1979)年	入間キャンパスにコンサートホール「バッハザール」竣工
昭和58(1983)年	短期大学部第2部廃止
昭和61(1986)年	短期大学部第1部廃止
平成元(1989)年	音楽学部第2部廃止
平成 5(1993)年	教育研究施設「武蔵野音楽大学パルナソス多摩」開設、同施設にコンサートホール「シューベルトホール」竣工
平成16(2004)年	大学院音楽研究科博士後期課程設置
平成18(2006)年	音楽学部ヴィルトゥオーソ学科設置、「武蔵野音楽大学楽器博物館」博物館相当施設に指定 (東京都教育委員会)
平成19(2007)年	音楽学部音楽環境運営学科設置、博物館法に定める学芸員課程設置

平成22(2010)年	大学院音楽研究科修士課程器楽専攻・声楽専攻にヴィルトゥオーソコース設置
平成23(2011)年	大学別科 再開
平成24(2012)年	「武蔵野音楽学園江古田新キャンパスプロジェクト」の進行に伴い、「武蔵野音楽大学楽器博物館」博物館相当施設の指定解除
平成27(2015)年	「武蔵野音楽学園江古田新キャンパスプロジェクト」の進行に伴い、コンサートホール「ベートーヴェンホール」を除く江古田校舎
平成29(2017)年	江古田キャンパス内のベートーヴェンホールを除くすべての校舎の新築工事の竣工、ベートーヴェンホールの耐震補強工事を含む改修工事ならびにむらさき寮の耐震補強工事の完了
	武蔵野音楽大学音楽学部の7学科組織から2学科組織への再編・統合による演奏学科・音楽総合学科設置
平成30(2018)年	大学院音楽研究科修士課程にピアノコラボレイティヴアーツコース設置
令和 2(2020)年	大学院音楽研究科博士後期課程の研究領域（器楽）有鍵楽器研究分野にピアノコラボレイティヴアーツ設置

3 法人本部・設置学校等

学校法人 武蔵野音楽学園

所在地 176-8521 東京都練馬区羽沢1-13-1
理事長 福井直敬（令和2年4月1日就任）

武蔵野音楽大学

所在地 176-8521 東京都練馬区羽沢1-13-1
学長 福井直昭（令和2年4月1日就任）

武蔵野音楽大学附属高等学校

所在地 358-8521 埼玉県入間市中神728
校長 福井直昭（令和2年4月1日就任）

武蔵野音楽大学第一幼稚園

所在地 176-0002 東京都練馬区桜台6-13-3
園長 前原信子（令和2年4月1日就任）

武蔵野音楽大学第二幼稚園

所在地 173-0037 東京都板橋区小茂根4-13-2
園長 関根弘美（令和2年4月1日就任）

武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園

所在地 358-8521 埼玉県入間市中神741-1
園長 塚田雄二（令和2年4月1日就任）

4 役員等（令和2年5月1日現在）

理事長 福 井 直 敬

理 事 相 原 安 夫 石 丸 雍 二 耕 修 二
野 村 邦 武 福 井 直 昭

監 事 岸 田 讓 濱 田 芳 貴

評議員 相 原 安 夫 秋 田 賀 文 石 丸 雍 二
上 原 正 子 小 栗 泰一郎 古 池 好
末 吉 孝 司 耕 修 二 富 山 英 明
野 村 邦 武 林 孝 治 福 井 直 昭
福 井 直 敬

5 教職員数一覧

（令和2年5月1日現在）

	教 員			職 員		
	専 任	兼 任	計	常 勤	非常勤	計
大 学 ・ 大 学 院	70	205	275	97	11	108
附 属 高 等 学 校	8	10	18	1	1	2
第 一 幼 稚 園	8	0	8	0	5	5
第 二 幼 稚 園	8	0	8	0	3	3
武 蔵 野 幼 稚 園	4	0	4	1	5	6

Ⅱ 事業の概要

令和2年度の重点目標

学校法人武蔵野音楽学園は、教育関連法令及び本学園の寄附行為の定めにしたがい教育を施し、社会の要請に応えうる人材の育成と、我が国の文化芸術の振興に寄与するため、令和2年度は以下の項目を重点目標に掲げ、各種事業を推進した。

- (1) 大学・附属高等学校・幼稚園・附属音楽教室の教育の質の充実・向上
- (2) 大学・附属高等学校・幼稚園・附属音楽教室の入学志願者・入学者の増加
- (3) 人件費その他経常的経費の節減等、財務・経営基盤の充実と強化
- (4) 第3期大学機関別認証評価受審準備の推進
- (5) 楽器ミュージアムの開館及び学園記念室開室の準備の推進

以上の目標に基づき推進された各種事業について、「法人」「大学」「附属する学校等」に区分して記述する。

1 法人

(1) 管理運営

ア. 第3期大学機関別認証評価受審準備

令和3年度第3期大学機関別認証評価受審に向け、自己点検評価書の作成、エビデンス集の整理等を実施計画に基づき進めている。

イ. 武蔵野音楽大学ガバナンス・コードの制定

武蔵野音楽大学ガバナンス・コードを制定し、ウェブサイトで公表した。

ウ. 施設・設備の整備

○江古田キャンパス

- ・楽器ミュージアム空調設備工事が完了。展示室内へ楽器の移動を開始した。
- ・稀覯図書室内へ収納棚を設置。美術品や工芸品の移動を開始した。
- ・旧江古田校舎保管分のポリ塩化ビフェエル（PCB）安定器廃棄物を処理

○入間キャンパス

- ・バッハザールの屋上防水工事と天井落下防止対策工事の実施

エ. 防災体制の整備

- ・災害や事故発生時の教職員の基本行動をまとめた危機管理マニュアルを策定した。
- ・教職員に対する防災訓練を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施できなかった。対応策として冊子「災害時の対応について」を作成し、「全事務職員・専任教員研修会」、「全教員・主任以上職員研修会」において全員に配付し、動画による避難経路の再確認、災害時の基本行動について説明した。

(2) 広報活動

ア. 学生・生徒・園児ならびに附属音楽教室生徒の募集活動に係る広報

交通広告、音楽関連雑誌、新聞等への広告掲載のほか、大学関連情報の取材対応、大学施設でのTVドラマ・映画等の撮影や取材協力により、学園名・大学名を広く周知した。

イ. プレスリリース

新学長就任についてプレスリリースした。

ウ. 公式ウェブサイトによる教育研究活動等の公開情報の充実

大学の教育研究活動等を告知し、公開情報を更新したほか、受験生向け各種イベントの広報及び申込をウェブサイトで行った。

エ. 公式SNS (Facebook、Twitter、LINE@、Instagram) の効果的な運用

SNS (Facebook、Twitter、LINE公式アカウント、Instagram) により、大学生の生活や活動の紹介を中心にイベントや演奏会等の情報を公開した。

オ. 広報誌「MUSASHINO for TOMORROW」(4回) の発行

学園ニュースの他、学外の幅広い分野の人物による執筆やインタビューのほか、「音楽の万華鏡」「卒業生インタビュー」「武蔵野を支える人々」等、多彩な内容で発行した。

(3) 学生・生徒・園児募集

ア. 大学

多面的・総合的な入学選抜に対応するための入学試験の種別、科目、課題等について検討し、令和3年度より導入した「総合型選抜」は、募集定員20名のところ59名の出願があった。また、令和4年度入学選抜から「一般選抜」における試験科目「ソルフェージュ」(視唱、聴音)は実施しないこととした。

留学生・社会人対象の入学試験制度については、令和4年度入試より外国人留学生入学試験(大学院修士課程)にピアノコラボレイティヴアーツコースを追加することとした。

また、受験生の利便性を考慮しウェブ出願システムの導入を決定し、令和4年度音楽学部1年次入学選抜から運用するための準備を開始した。

江古田キャンパスにおける「オープンキャンパス」、各地方で開催する「学校説明会&体験レッスン」のほか、開催区分をピアノ・声楽・管打楽器・弦楽器に分けた「小中高生のためのステップアップ・プログラム」を計画したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により以下のとおり変更し、開催した。

計画	実施
・「オープンキャンパス」5回	4回
・「学校説明会&体験レッスン」14会場	4会場
・「ステップアップ・プログラム」各2回ずつ	各1回ずつ

夏期・冬期・春期の「受験講習会」を各1回計画していたが、臨時休校の影響により1学期の行事を繰り下げた高校に対応するため、夏期は2期(8月8日～10日)を追加し、開催した。

大学院進学説明会は、在学生のほか卒業生、他大学生、一般を対象に1回開催した。

教育実習全実習校及び推薦指定校等への教職員の派遣は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止した。

イ. 附属高等学校

新型コロナウイルス感染拡大防止による中学校の臨時休校後の6月の学校再開と同時期から、さまざまな機会を通じて音楽に興味・関心を持つ小・中学生と早期に接触し、本校の教育の特色・魅力をウェブサイトやSNSを含め広く発信した。

大学開催での「オープンキャンパス」や高校開催での「小・中学生のための高校説明会」「中学生のための音楽基礎講座」については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により以下のとおり変更し、開催した。

計画	実施
・「オープンキャンパス」4回	3回
・「小・中学生のための高校説明会」3回	4回
・「中学生のための音楽基礎講座」10回	8回

また、1対1での個別対応で実施する「体験レッスン&パーソナルアドバイス」を新規に計画し、計13回実施した。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け「吹奏楽基礎講座」や「小学生のためのリアル体験教室」は中止とした。

夏期・冬期・春期の「受験講習会」は、各1回計画していたが、中学校臨時休校の影響により1学期の行事を繰り下げた中学校に対応するため、夏期は2期(8月8日～10日)を追加し、江古田キャンパスで開催した。

ウ. 幼稚園（第一・第二・武蔵野各幼稚園）

本園の幼児教育及び特色ある音楽教育への理解の促進を目的として、プレ幼稚園、公開保育、園庭開放など未就園児親子対象企画を計画していたが、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発令により4～5月の休園期間については、実施を見合わせ、その後、保護者の要望等を参考にしながら、6月より少人数での入替制等にて実施した。

新規として、附属入間音楽教室による特別体験教室を武蔵野幼稚園で実施し、計4回18名参加のうち2名が入室した。

学研幼児教室による「ぴよちゃん教室」については、第一幼稚園では「プレイルーム」年少コースを新規開設、また武蔵野幼稚園においても無料体験教室を新規開催した。

エ. 附属音楽教室（江古田・入間・多摩各音楽教室）

例年、各音楽教室で年2回実施しているレッスン、クラス授業、楽器演奏等の体験教室は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により個人レッスンは実施し、クラス授業は中止した。

(4) SD活動

令和2年10月に「部署別職員研修会」を実施し、各部館においてのコロナ禍での対応点をまとめ、問題点、改善策について討議した。令和3年3月に「全事務職員・専任教員研修会」を実施し、理事長より学園の沿革、教育方針、SDとFDについて、学長より大学運営の指針、教職協働、大学機関別認証評価受審について等の講話を行った。

令和3年3月に「新任者研修会（職員）」を実施し、理事長、学長講話のほか、配属先の部館長が、新任者が担当する業務内容及び業務実施上の留意事項等について教育を行った。「職階別職員研修会」は、今年度は中止とした。学外研修会・セミナーについては、後期以降オンラインでの研修会等に参加した。

2 大学

(1) 教育研究

ア. 教育改革

a. 音楽学部入学定員の変更

今後の18歳人口の減少、首都圏音大の入学定員の規模の状況、コロナ禍の影響等を総合的に勘案し、令和4年度入学生より入学定員を現在の310名から300名に変更することとした。これにより、令和4年度より入学者選抜の募集人員を見直し、「総合型選抜」を20名から50名、「一般選抜」を140名から100名、「学校推薦型選抜（指定校）」を150名（変更なし）とした。

b. 完成年度を迎えるカリキュラムの検証による問題点の把握及び改善

新カリキュラムの検証の結果、令和3年度より科目名称の変更、開講年次の変更、新規科目の追加、既存科目の廃止、作曲コースと音楽教育コースへの3,4年次のソルフェージュ履修の追加等を決定した。

c. 成績評価基準の厳正化

クラス授業における成績評価基準について成績分布の割合を定め、令和3年度から適用することとした。

d. GPA活用範囲等の検討

GPAは、進級基準、本学独自の奨学金授与対象者、卒業生代表者、卒業演奏会出演者等の選考に加え、卒業判定における保留者の特別再試験の受験資格としても活用した。また、令和3年度よりCAP制の上限緩和の条件として活用することを決定した。

e. 学修成果の可視化を実現する学修ポートフォリオの導入準備

令和3年度からの学修ポートフォリオの導入に向け、本学ポータルシステム「武蔵野音楽大学ユニバーサルパスポート」の「学修ポートフォリオ」機能を利用し、学生個々の授業履修状況や各種データをシステムに登録の上、基本機能を稼働させた。さらに、学修ポートフォリオの項目として各授業科目において学位授与の方針と関連の

ある11項目を決定した。

f. シラバスの充実

授業科目ごとに科目ナンバー、授業の到達目標及びテーマ、授業の内容、予習・復習等の内容・それに必要な時間、課題に対するフィードバックの方法、成績評価の方法・基準、学位授与の方針と関連のある11項目を記載し、修学上の指針となる内容を示した。

g. 学生による授業評価アンケート（クラス授業）の実施と結果の検証

クラス授業について毎年授業評価アンケートを行い、教育内容・方法の改善・向上につなげているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和3年度に延期した。

h. 入学前教育の充実

従来からの学校推薦型選抜の合格者への課題提示、受験講習会でのクラス授業（音楽理論・ソルフェージュ）の参加の機会を設けることに加え、今年度から導入した総合型選抜の合格者には「特別プログラム」として、受験講習会でのクラス授業、レッスン受講の機会を提供し、入学前教育の充実を図った。

i. プレカレッジプログラムの検討

大学が附属高校と一貫した教育理念の下で円滑に接続し、幅広く高度な教育を目指すための学修プログラムを「プレカレッジプログラム」とし、令和4年度からの実施に備え、対象科目・単位の認定（先取り）・単位の修得方法・成績付与等について検討した。

j. 科学研究費助成事業への申請の促進及び研究倫理の周知徹底

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、申請説明会は開催せず個別対応を行った。5件の申請のうち1件が採択された。

イ. 学修支援

a. 履修系統図、科目ナンバリングの設定準備

ディプロマポリシーに基づき、卒業までに身につけるべき知識・能力と開講科目との相互の関連性を明確にするため、学年別・コースごとの履修系統図、科目ナンバリングを設定し、令和3年度のシラバスに掲載した。

b. 留学生に対する日本語能力水準の向上に向けた教育の充実及び教育内容や習熟度別クラス編成の検討

留学生の増加により生じた日本語能力レベルの格差を是正するため、1年次の「日本語Ⅰ」「日本語会話」、2年次の「日本語Ⅱ」「日本事情」の4科目について習熟度別クラスを編成し、教材、教育内容・方法、指導法の充実・改善を図った。

c. 練馬区教育委員会との連携によるプレ実習の実施

教育実習にそなえて、事前指導の一層の効果向上のため、練馬区教育委員会との連携のもと、3年次希望者を対象に練馬区立の小中学校において指導補助、吹奏楽、合唱等の部活動の支援を実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施しなかった。

d. 教務システム等の機能の拡充

従来から使用している教務システム「GAKUEN」と連携可能なポータルシステムである「武蔵野音楽大学ユニバーサルパスポート」を導入し、まずは掲示配信、成績照会、アンケート機能等の基本的な機能の運用を開始した。また、令和3年度からのシラバス照会、履修登録、スマートフォンによる出席確認等の運用を開始するための準備を行った。

ウ。学生支援

a. 福井直秋記念奨学金制度の充実

令和3年度入学生より学修サポート体制を充実させるため、本学独自の給付型の奨学金について給費区分を新設し、給付総額、給付者数を大幅に増やし、奨学金制度を充実させた。

b. 就職支援の充実

進路に関する指導として、キャリアに関する面談を学部3・4年次、大学院1・2年次全員を対象に毎年実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面に加えオンライン、メール、電話でも対応した。

また、国家資格キャリアコンサルタント及びキャリア・デベロップメント・アドバイザーの資格を持つ職員による進路指導に加え、進路ガイダンス、本学教員による教員志望者対象の特別講座や二次試験対策講座、学内模擬試験の実施、教員就職支援業者の協力による就職支援セミナー（全学年対象）、採用担当者を招いての各種学内募集説明会、内定した学生による業種別ガイダンス（教員、音楽教室、一般企業等に区分）等を実施した。

c. 留学生支援体制の整備

新型コロナウイルス感染拡大のため、例年実施している研修会と懇談会は開催を取り止めた。また、来日できない学生が多数いたため、個別に消息及び来日予定の確認を進め、経済的支援を含む支援の可能性について検討を行った。

d. 障害のある学生への支援体制の整備

「武蔵野音楽大学障害学生支援に関する基本方針」を制定し、ウェブサイトで公表した。

e. 問題を抱える学生への支援体制の整備

従来の学生相談に加え、心理的問題を抱える学生や発達障害等に悩む学生の相談に対応するため、令和3年度より公認心理師・臨床心理士を配置することとした。

f. 学寮の生活環境整備に係る問題点の把握と改善

学寮委員を選出し、避難訓練連絡係等の従来の役割に加え、今年度は生活環境向上のための入寮生からの要望等の吸い上げに重きを置いた役割を指定した。

g. 卒業生向けアンケート実施要領の検討

本学の特色として卒業後の継続的な支援を実施しているが、より充実した支援に向けて、卒業生の就職活動に関するアンケート実施についての検討を進めた。

h. 休学者・退学者の防止に対する支援・指導の強化

学費納入については猶予期間を設け、経済的に困難な学生に対し柔軟に対応し申請の全てが納入された。また、後期についても同様に対応した。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のための学内入構禁止期間中の相談体制を整備するため、全学生にメールアドレスを付与し対応した。

i. 学生意見・要望の把握方法及び意見・要望への対応要領の再構築

例年実施している個人面談に替えて、ICTを活用したアンケートを実施し、状況及び必要となる対応について把握した。

j. 避難訓練、防災、防犯訓練等の実施

地震及び火災を想定した全学的な避難訓練を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実動の訓練ではなく冊子「災害時の対応について」を作成し、これに基づき3月下旬のガイダンスやオリエンテーション時に趣旨説明と避難経路の確認を行った。学生寮での避難訓練は、フロア別に4回に分けて実施した。

エ. FD活動

各部会ごとに教員の教育力、教育内容・方法及び学修指導等の改善・向上を図るため、年数回会議を開催し各部会で取り組んだ実施事項及び実施分析の結果をFD委員会で発表、審議を行い、部会間での共通的課題等について情報共有を図った。

「新任研修会(教員)」では、新任教員に対して所属のコース長または部会長が、円滑に授業を開始するために本学の教員にとって必要な勤務上の知識等について教育を行った。

【令和2年度福井直秋記念奨学金種類・対象・給付額・給付人数】

■新入生（音楽学部1年次）

種類	対象区分	対象学年	給付額	給付人数
特別給費奨学金 (特待生)	音楽学部	新入生（1年次）	授業料全額相当額	2
			授業料半額相当額	2
給費奨学金	音楽学部	新入生（1年次）	入学金相当額	15
計				19

■入学後対象

種類	対象区分	対象学年	給付額（年額）	給付人数
給費奨学金	音楽学部	2～4年次	20万円	27
	大学院修士課程	1～2年次	22万円	16
	大学院博士後期課程	最短修業期間内修了での学位取得者	10万円	0
特別給費奨学金 (特待生)	音楽学部	2～4年次	該当学年の授業料全額相当額	1
外国人留学給費奨学金	外国人留学生	音楽学部2～4年次 大学院修士課程2年次	該当学年の授業料3分の1相当額	1
特別成果給費奨学金	音楽的・学術的または社会的な活動において特に顕著な成果をあげた学生	全学年	30万円	0
緊急給費奨学金	家計の急変により学業継続が困難になった学生	全学年	最高20万円	0
計				45

オ. 図書館・楽器ミュージアム・学園記念室運営

a. 図書館

○学修支援

情報リテラシースキルの育成について、スキルアップ講座の開講、文献検索ガイダンス・文献指導及びレファレンスサービス・テーマ企画展を計画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のための入構制限により中止とした。

○研究支援

電子リソースの整備と学術資料の体系的な収集・蓄積を実施した。

○社会貢献

機関リポジトリのコンテンツの発信及びNII（国立情報学研究所）との連携による目録データベースの質の向上を図った。オンライン共同分担目録方式により、全国規模の総合目録データベースを形成し、他大学図書館等との書誌情報と所在情報を共有することで学術情報の向上を図った。

○閉架書庫の効率化

研究成果物の電子化の準備段階作業を行った。また、小規模ながら利用者の要望に応じた資料の適正配置も実施した。

○新型コロナウイルス感染拡大防止に対するオンライン授業における自宅学修支援の実施

- ・自宅への資料の宅配貸出を行った。
- ・自宅からアクセス可能な学修支援ツール一覧の作成とウェブサイトへの掲載を行った。
- ・EBSCO eBOOKの臨時契約を行い、利用拡大を図った。
- ・オンラインによる「図書館利用ガイダンス」動画を作成し、ウェブサイトへ掲載した。
- ・「OPAC利用案内」「図書館案内」を刷新し、ウェブサイトへ掲載した。
- ・メールによるレファレンス・学修相談を実施した。
- ・卒業生への研究支援として、館外特別貸出を行った。

b. 楽器ミュージアム

○楽器資料の移転及び展示準備

ピアノ類・ピアノ以外楽器類・クリスタル楽器・絵画に分けての移転作業を行い、楽器資料の移転は終了し、展示作業を開始した。

○リーフレット等の印刷物作製

カレイドスコープⅢ(所蔵資料の写真と解説)とリーフレットの作製を開始した。

○所蔵資料の電子データ化の整備・拡大

データのアーカイブを主目的とする所蔵資料の一括管理を中心に所蔵資料の整備を継続して実施した。

○学芸員課程実習生の受入れ

学芸員課程実習生を17名受入れ、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、4グループに分けて各5日間実施した。

○入間キャンパスに保管中の資料整理と江古田キャンパスへの資料移動

江古田キャンパスへの資料移動を終了させ、入間キャンパスでの資料整理を継続して行った。

c. 学園記念室

令和4年度の開室に向けて内部レイアウトを決定した。また、全収蔵品の登録、写真撮影、整理を終了した。今後各エリアの展示レイアウトについて検討し、展示資料を選定していく。

■教育研究組織

学部・研究科等		学科・専攻・研究領域等		課程等
音楽学部		演奏学科		教員免許課程・学芸員課程
		音楽総合学科		
大学院 音楽研究科	博士前期課程 (修士課程)	器楽専攻		
		声楽専攻		
		作曲専攻		
		音楽学専攻		
		音楽教育専攻		
	博士後期課程	音楽専攻	器楽研究領域	
			声楽研究領域	
			作曲研究領域	
			音楽学研究領域	
			音楽教育研究領域	
別 科		器楽・声楽・作曲・指揮		

■教員組織及び学科・専攻・研究領域ごとの教員数

学部・研究科等		学科・専攻・研究領域等	専任教員	兼任教員
音楽学部		演奏学科	66	174
		音楽総合学科	16	50
		教養、体育、外国語、共通基礎、指揮等	12	32
大学院 音楽研究科	博士前期課程 （修士課程）	器楽専攻	27	33
		声楽専攻	13	17
		作曲専攻	4	3
		音楽学専攻	2	8
		音楽教育専攻	5	2
	博士後期課程	音楽専攻	13	6
別 科		器楽・声楽・作曲・指揮	18	30

教員数には兼務している教員を含む

■専任教員と兼任教員の構成比率

	人数	構成比率(%)
専任教員	70	25.5
兼任教員	205	74.5
計	275	100.0

■年齢別教員数

	専任教員数	兼任教員数
29歳以下	0	2
30歳～39歳	0	19
40歳～49歳	3	40
50歳～59歳	29	51
60歳～69歳	32	67
70歳以上	6	26
計	70	205

■職階別教員数

	人数
教授	37
准教授	12
専任講師	21
兼任講師	205 特任教授7、特任准教授1を含む
計	275

兼任講師には職員が兼務する場合を含まない。

■教員の経歴・業績等は、本学ウェブサイトに掲載

■学生に関する情報

【学生数等】

学部・研究科等	入学定員	入学者数 R2.5.1現在	収容定員	在学者数 R2.5.1現在
音楽学部	310	284	1,240	1,026
音楽研究科博士前期課程 (修士課程)	65	56	130	119
音楽研究科博士後期課程	10	2	30	15
別 科	80	80	80	80

【令和2年度卒業生・修了生の進路状況】（令和3年5月1日現在）

学部・研究科等	進学者数	就職者数	主な分野
音楽学部	57	130	演奏関係、教員、音楽教室講師 一般企業・団体（音楽系含む）
音楽研究科博士前期課程 (修士課程)	5	30	演奏関係、教員、音楽教室講師 一般企業・団体（音楽系含む）
音楽研究科博士後期課程	—	—	

【令和2年度卒業生・修了者数・学位授与状況】（令和3年5月1日現在）

学部・研究科等	卒業（修了）者数	学位授与数
音楽学部	240	240
音楽研究科博士前期課程 (修士課程)	51	51
音楽研究科博士後期課程	0	0

【令和2年度留年者数・退学者数・除籍者数・中退率】

学部・研究科等	留年者数	退学者数	除籍者数	中退率
音楽学部	9	16	0	1.6%
音楽研究科博士前期課程 (修士課程)	5	3	0	2.5%
音楽研究科博士後期課程	5	0	0	0%
別 科		0	0	0%

【令和2年度社会人学生・留学生数・海外派遣学生数】

学部・研究科等	社会人学生数	留学生数	海外派遣学生数
音楽学部	5	33	0
音楽研究科博士前期課程 (修士課程)	19	25	0
音楽研究科博士後期課程	5	4	0

【教員一人当たりの学生数（学部）】

学部学生数	専任教員数	専任教員一人 当たりの学生数
1,026	70	14.6

【令和3年度入学者選抜状況】

音楽学部

学年 区分	学科	コース等	総合型		学校推薦型		一般		外国人留学生		合 計		
			志願 者数	合格 者数	志願 者数	合格 者数	志願 者数	合格 者数	志願 者数	合格 者数	志願 者数	合格 者数	
1 年次	演奏	器 楽	—	27	97	96	62	55	3	2	162	180	
		声 楽	—	8	19	19	14	13	2	2	35	42	
		ヴァイタウオーゾ	59	13	—	—	50	13	—	—	109	26	
		計	59	48	116	115	126	81	5	4	306	248	
	音楽総合	オープンミュージアシステム			4	4	6	6	1	1	11	11	
		作 曲			1	1	1	1	5	4	7	6	
		音 楽 学			1	1	2	2	0	0	3	3	
		音楽教育			2	2	10	4	1	1	13	7	
		アートマネジメント			4	4	3	2	0	0	7	6	
		計			12	12	22	15	7	6	41	33	
	合計		59	48	128	127	148	96	12	10	347	281	
3 年次編入学	演奏	器楽			4	4	1	1	1	0	6	5	
		声楽			3	3					3	3	
		計			7	7	1	1	1	0	9	8	
	音楽総合	作曲							1	1	1	1	
		音楽教育					1	1			1	1	
		計					1	1	1	1	2	2	
	合計				7	7	2	2	2	1	11	10	
転 入 学	4年次	演奏	器楽			2	2					2	2
	3年次	演奏	器楽			8	6						
		音楽総合	音楽教育			4	4					4	4
			アートマネジメント			7	7					7	7
	2年次	演奏	器楽			6	6					6	6
		音楽総合	音楽教育			1	1					1	1
			アートマネジメント			3	3						
	合計				31	29					31	29	

- ・1年次一般選抜で併願の場合、志願者数には第2志望も含む。
- ・総合型選抜においては、ヴィルトゥオーゾコースが不合格となった場合、希望により演奏学科器楽コース、声楽コースへ合格とする。

大学院音楽研究科

博士前期課程（修士課程）

専攻	一般		外国人留学生	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
器楽	41	37	13	8
声楽	14	13	1	1
作曲	1	1	3	2
音楽学	1	1	0	0
音楽教育	0	0	5	2
合計	57	52	22	13

※志願者数は第1志望のみ

博士後期課程

志願者数	合格者数
7	4

別科

志願者数	合格者数
84	76

(2) 演奏活動

音楽大学における演奏会等の実施は、第一に学生の教育研究に資することを目的としているが、同時に大学が地域社会に還元できる重要な社会貢献としての取組みでもある。

本学では、教授陣をはじめとする著名な演奏家による公開講座と演奏会、学生による定期演奏会・国内演奏旅行及び研究の成果を発表するため、今年度も多岐にわたる演奏会を計画したが、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発令中の演奏会、海外招聘教授による公開講座シリーズ、学外での定期演奏会は中止とした。開催可能なコンサートについては入場制限や日程変更等の対策を講じ実施した。その結果、計画した約7割の演奏会を実施することができた。

ア. 公開講座シリーズ（各教授の来日が不可能のため中止）

- ロバート・ダヴィドヴィッチ ヴァイオリンリサイタル
- ガヴォール・タルケヴィー トランペット公開レッスン
- ケマル・ゲキチ ピアノリサイタル
- グレッグ・ニェムチュク ピアノリサイタル
- ワシントン・バレッラ オーボエリサイタル

イ. 定期演奏会・国内演奏旅行

○武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会

東京芸術劇場コンサートホール（9月入場制限によりベートーヴェンホールで実施）
宇都宮市文化会館大ホール（9月中止）

○武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会

東京オペラシティ コンサートホール（7月中止）
けんしん郡山文化センター大ホール（7月中止）
東京芸術劇場 コンサートホール（12月実施）

○武蔵野音楽大学管弦楽団合唱団演奏会

東京芸術劇場 コンサートホール（12月合唱団を除く管弦楽団演奏会として実施）
ベートーヴェンホール（11月合唱団を除く管弦楽団演奏会として追加実施）

ウ. 新人演奏会 (中止)

- ・武蔵野音楽大学音楽学部新人演奏会～令和元年度卒業生による～
- ・武蔵野音楽大学大学院修士課程新人演奏会～令和元年度修了生による～

エ. 学内コンサート

- ・令和元年度卒業演奏会 (3回) (実施)
- ・ニュー・ストリーム・コンサート39・40
～ヴィルトゥオーゾコース演奏会～ (2回) (日程変更し実施)
- ・ニュー・ストリーム・コンサート41
～ヴィルトゥオーゾコース演奏会～ (1回) (実施)
- ・選抜学生によるコンサート (8回) (実施)
- ・大学院修士課程在学学生によるコンサート (中止)
- ・作曲専攻学生による作品発表 (6回) (7月の3回は中止・1月の3回は実施)
- ・選抜学生によるコンサート (8回) (実施)
- ・オペラコース試演会 (実施)
- ・学生による演奏会 (8回) (日程変更し実施)
- ・授業研究発表 (7回) (実施)
- ・室内楽授業発表 (2回) (日程変更し実施)

オ. 特別講座

- ・坂東玉三郎特別招聘教授による特別講座 (2回) (実施)

(3) 社会貢献・地域連携

本学の知的財産や施設を活かし、社会貢献を目的として、地域自治体・企業・文化団体等との連携により、主に演奏会・講座の実施、演奏者・講師の派遣、施設の提供等を行った。今年度実施した事業は次のとおりである。

ア. 社会貢献・地域連携

大学、自治体、企業の関係諸機関・諸団体との連携による演奏会の開催、講師の派遣、施設設備の供与・開放等の社会貢献・地域連携に資する活動を実施。

〈実施事業〉

- 陸上自衛隊中央音楽隊音楽教育の指導者派遣
- 練馬区との共催による公開講座 (1回)
- 外部団体主催によるコンサートへの開催出演
公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団 (通称Kissポート財団) による「音楽のさんぽ道」「音楽のさんぽ道～0さいからのコンサート～」
- 小学校での音楽鑑賞教室 (川口市立戸塚東小学校)

〈新型コロナウイルス感染拡大防止対応による中止となった事業 (依頼受け計画分)〉

例年依頼を受け実施している「文化学園大学卒業イベント (文化学園大学・日本体育大学とのコラボレーション)」や「子ども音楽大学入間」等の公演については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、中止となった。

イ. 生涯学習プログラム

生涯学習プログラムとして実施している教員免許状更新講習、免許法認定講習、社会人のための夏期研修講座については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、すべて実施を取り止めた。

(4) 特記すべき取り組み

新型コロナウイルス感染拡大防止のための対応について、以下のとおり実施した。

a. 活動制限指針の策定

レベル0（通常）～ レベル8（最も強い入構制限）の全8段階からなる「武蔵野音楽大学新型コロナウイルス感染拡大防止のための活動制限指針」を策定し、感染拡大状況によりレベルを移行させながら、授業やレッスンの実施方法、学生の入構時間、施設設備の利用方法、課外活動の実施制限、職員の勤務体制等について対応した。

b. 感染予防対策・感染拡大防止対策

正面入口では事務職員または警備員による検温の実施、手指消毒及びマスク着用の確認作業を徹底した。対面にて授業を実施した教室については、座席数を三分の一に減らし、常時換気を行った。学内各所に手指消毒液を設置し、レッスン室、事務室には飛沫防止のためのパーティションを設置した。また、キャンパスレストランでは座席数を減らし、各テーブルに飛沫防止パネルを設置した。

c. 入構者数の調整

入構時間、練習室使用時間の制限内容を「武蔵野音楽大学 新型コロナウイルス感染拡大防止のための活動制限指針」のレベルに応じて変更し、学生の練習環境の保持に努めつつ、入構学生数の減数調整を行った。

d. ICTを活用したオンライン授業の実施

学生の学修の機会を継続させるべく、オンラインでの授業を実施することとし、以下を実施した。

- ・ユニバーサルパスポートの導入
- ・オンライン授業運用指針の策定
- ・学内インターネット環境の強化
- ・ビデオ会議システム（Zoom）の導入
- ・Zoomを用いたオンライン授業ガイドの作成（学生用・教員用）
- ・オンライン授業に関するFAQ（学生用）の作成
- ・レッスンは、5月13日よりオンラインにより開始、6月10日以降対面で実施した。
- ・クラス授業は、5月20日よりオンライン、7月1日以降段階的に対面での実施を開始した。定期公演を伴う合唱・合奏等は9月18日より対面授業を開始した。

e. 緊急支援給付金の支給

オンライン授業の実施に伴い、通信環境や通信機器を整えるための経済的負担を軽減することを主たる目的として、全学部生・大学院生（修士課程・後期博士課程）を対象に1人あたり10万円、別科生には1人あたり3万円を「緊急支援給付金」として給付した。さらに、家計が急変し経済的に修学困難となった学生で、要件を満たした者13名に3万円の追加支給を行った。

f. ICTを活用した入学者選抜の実施

東京都への移動が困難な本学志願者の受験の機会を維持するため、以下を実施した。

- ・入学者選抜においてオンライン方式での試験方法を併用
- ・公平公正な審査が困難なため、一般選抜では「ソルフェージュ」試験を免除
- ・オンライン方式の実施方法等を記載した入学者選抜要項（改訂版）を発行
- ・オンライン方式での受験者に対する「事前通信接続テスト」の実施

- g. 入学式・卒業式・学位記授与式・大学院修了式・卒業演奏会の実施について
- ・入学式は中止とした。
 - ・卒業式・学位記授与式・大学院修了式は、感染予防対策を徹底の上、事前に配席を決定し、卒業生・修了生のための参列とした。また、式典の様子を録画しオンデマンドでの配信を行った。
 - ・卒業演奏会は、本学関係者(学生・教職員・出演者ご家族)のみ入場許可として開催した。

3 附属する学校等

(1) 附属高等学校

学校自己評価及び学校関係者評価を実施し、評価結果を検証し教育力の強化と教育環境の改善向上を図った。また、入学者の学力、音楽実技の多様化に対応するため、習熟度別指導を展開し基礎学力の向上と専門知識の確実な修得を目指した教育の充実を図った。

さらに、令和4年度入学生から順次導入する新学習指導要領の改訂に基づき、新教育課程の検討を行った。また演奏科目の発表の機会として、新型コロナウイルス感染拡大防止における政府・埼玉県との対策と連動し、開催の時期・内容・対策方法を検討しながら、各種コンサートを開催した。

FD・SD活動として、全教職員研修会、専任教員研修会、附属高校全教職員研修会、授業研究等を実施し、教員の教育力の充実・改善向上を図った。

また、附属高校生が大学の授業科目を履修できるプレカレッジプログラムの内容等について大学と連携し、継続して検討した。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、緊急事態宣言に伴う臨時休校の期間は、クラス授業を中止し課題を課す等で対応、レッスンについては5月13日よりオンラインで実施し、6月1日からはクラス授業、レッスン共に全て対面で実施した。また、オンライン授業の実施に伴い、通信環境や通信機器を整えるための経済的負担を軽減することを主たる目的として「緊急支援給付金」を1人あたり3万円給付した。

入学式は中止とし、卒業式・卒業演奏会は、感染予防対策を徹底の上、事前に配席を決定し関係者のみの参列とした。

(2) 幼稚園（第一・第二・武蔵野各幼稚園）

保護者や地域、附属音楽教室との連携を密にし、音楽大学附属幼稚園としての特色を活かし、質の高い幼児教育、保育内容の充実を図った。自己評価・内部評価による教育及び業務や実施計画の検討、教職員研修（オルフ・メソッド、ソルフェージュ、ピアノ実技等）の実施、三園連絡会では今年度は定例に加え、新型コロナウイルス感染予防対応等の検討のため臨時に開催し連携を強化した。オルフ、保育バイオリン等による音楽教育の充実、大学施設等を利用した園児による音楽会・発表会、また合同音楽鑑賞会を開催した。

子育て支援事業として、預かり保育と課外教室を充実させ、給食の選択制（第一）を導入し、保護者からの好評を得た。

自然災害や火災を想定した避難訓練を消防署と、防犯訓練を警察署と連携し毎年実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第一、第二幼稚園における消防署による避難訓練については、中止とした。

第一、第二幼稚園は4、5月休園し6月1日に入園式を行い、武蔵野幼稚園は4月7日入園式後に4、5月は休園とし、それぞれ6月1日から保育を再開した。卒園式については、クラスごとに感染予防対策を徹底し、開催した。

(3) 附属音楽教室（江古田・入間・多摩各音楽教室）

ジョイントコンサート、クリスマスコンサート等各種コンサートは、新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとり入場制限を行い、実施した。3音楽教室合同での夏期ミュージックキャンプは中止とした。全教員及び主任以上職員研修会と連携した全教員研修会は中止としたが、始業連絡事項文書を各講師に送ることで対応した。

主管、事務職員は、令和3年3月に実施した全事務職員・専任教員研修会に出席した。

今年度の講師演奏会は中止としたが、講師研究会は十分な感染予防対策をとりながら実施し、講師の教育研究の充実を図った。

レッスンは、5月9日よりオンラインにより開始、6月10日以降はレッスン、クラス授業とも全て対面で実施した。

今年度より入間音楽教室による武蔵野幼稚園への出張特別体験教室を実施、計4回で18名の参加があり、うち2名が入室した。来年度の実施に向けても計画した。

(4) パルナソス多摩

「パルナソス多摩女声合唱団」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、4～5月の「パルナソス多摩女声合唱団」の練習は取り止め、6月から対面での練習を再開し、感染防止対策をとり10月にシューベルトホールでの定期演奏会を開催した。

「パルナソス多摩女声合唱団」については、今年度をもって活動の停止を決定した。

Ⅲ 財務の状況

令和2年度決算の概要

令和2年度の決算報告書は、令和3年5月24日開催の本学園理事会で承認された。
学校法人会計に基づいて作成された収支決算の概要は以下のとおりである。

事業活動収支では、新入学学部学生数が想定人数を上回ったことにより学生生徒等納付金が増収となった反面で、経常費等補助金や雑収入のうちの私大退職金財団交付金収入が大きく減収となったことから教育活動収入が予算比で2億5,200万円の未達となったものの、人件費は退職給与引当金の繰入が少額にとどまったことにより、また教育研究経費と管理経費は、新型コロナウイルス感染拡大下での活動自粛等の影響により、結果として教育活動支出が予算比3億7,400万円と大きく圧縮されたことから、教育活動収支は予算比1億2,200万円の改善を見る結果となった。

教育活動外収支では、その他の教育活動外収入として収益事業からの収入が予算通りに1,536万円得られた一方で、本年度からスタートした外部委託の投資信託からの予算計上外の分配金収入2,775万円が収支差額を押し上げたため、予算比3,360万円の収入増となった。

特別収支計上後の基本金組入前当年度収支差額は、予備費を使用しなかったことに加え、上記教育活動収支、教育活動外収支の好転から予算比3億6,000万円改善となる4億4,500万円の支出超過にとどまった。これは、令和元年度の実績と比較しても、2億2,500万円の改善となっている。

資金収支では、施設関係支出と設備関係支出を合算しても1億円以内で収まっている状況であり、次期繰越金として27億円余を令和3年度に繰越していることからして資金繰りに全く不安はない。

積立金・引当金関係では、期中受け入れた寄付金に対応して、建設引当特定資産を296万円、奨学引当特定資産を545万円、演奏活動特定資産を335万円それぞれ積増したが、退職給与引当資産については、退職給与引当金の減額に伴い、1億2,160万円の取崩しを行っている。

退職給与引当金はその全額を、また、減価償却関係ではその累計額に対して57.9%を特定資産として内部留保している。これらの特定資産、引当資産及び手元運転資金の一部は、別に定めた資産運用管理規程に基づき、国債及び信用度の高い公社債を主に運用しており、本年度末の時価総額は175億5,900万円と貸借対照表計上額を7億3,700万円上回っている状況から、保有運用資産の健全性に懸念は認められない。

財 産 目 録
令和3年3月31日

I 資産総額	52,955,940,496 円
内 基本財産	29,659,519,918 円
運用財産	20,071,283,375 円
収益事業用財産	3,225,137,203 円
II 負債総額	3,815,689,322 円
III 正味財産	49,140,251,174 円

区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	
土地	568,558 m ² 9,781,924,687 円
建物	81,473 m ² 16,750,061,970 円
図書	300,191 冊 1,087,110,215 円
教具・校具・備品	23,334 点 1,240,088,621 円
その他	800,334,425 円
2 運用財産	
現金預金	2,723,643,053 円
その他	17,347,640,322 円
3 収益事業用財産	3,225,137,203 円
資 産 総 額	52,955,940,496 円
負債額	
1 固定負債	
長期借入金	0 円
その他	2,148,337,480 円
2 流動負債	
短期借入金	0 円
その他	1,658,031,842 円
3 収益事業負債	9,320,000 円
負 債 総 額	3,815,689,322 円
正味財産(資産総額－負債総額)	49,140,251,174 円

貸 借 対 照 表

令和3年 3月 31日

(単位 円)

資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	50,123,551,610	50,486,012,645	▲ 362,461,035
有形固定資産	29,798,407,048	30,350,213,883	▲ 551,806,835
土地	9,788,679,261	9,788,679,261	0
建物	16,752,726,242	17,237,131,346	▲ 484,405,104
その他の有形固定資産	3,257,001,545	3,324,403,276	▲ 67,401,731
特定資産	16,315,374,736	16,425,273,736	▲ 109,899,000
その他の固定資産	4,009,769,826	3,710,525,026	299,244,800
流動資産	2,823,074,343	3,078,041,131	▲ 254,966,788
現金預金	2,723,643,053	2,921,452,068	▲ 197,809,015
その他の流動資産	99,431,290	156,589,063	▲ 57,157,773
資産の部合計	52,946,625,953	53,564,053,776	▲ 617,427,823
負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	2,148,337,480	2,270,622,862	▲ 122,285,382
長期借入金	0	0	0
その他の固定負債	2,148,337,480	2,270,622,862	▲ 122,285,382
流動負債	1,658,031,842	1,707,458,939	▲ 49,427,097
短期借入金	0	0	0
その他の流動負債	1,658,031,842	1,707,458,939	▲ 49,427,097
負債の部合計	3,806,369,322	3,978,081,801	▲ 171,712,479
純資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
基本金	50,875,487,949	50,876,238,871	▲ 750,922
第1号基本金	45,612,450,213	45,556,965,135	55,485,078
第2号基本金	1,988,151,277	1,985,188,977	2,962,300
第3号基本金	3,004,886,459	2,996,084,759	8,801,700
第4号基本金	270,000,000	338,000,000	▲ 68,000,000
繰越収支差額	▲ 1,735,231,318	▲ 1,290,266,896	▲ 444,964,422
翌年度繰越収支差額	▲ 1,735,231,318	▲ 1,290,266,896	▲ 444,964,422
純資産の部合計	49,140,256,631	49,585,971,975	▲ 445,715,344
負債及び純資産の部合計	52,946,625,953	53,564,053,776	▲ 617,427,823

資 金 収 支 計 算 書

令和 2年 4月 1日から
令和 3年 3月 31日まで

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	2,532,528,000	2,570,841,600	▲ 38,313,600
手数料収入	23,800,000	22,881,794	918,206
寄付金収入	20,000,000	44,230,528	▲ 24,230,528
補助金収入	340,000,000	287,905,526	52,094,474
国庫補助金収入	200,000,000	164,476,700	35,523,300
地方公共団体補助金収入	140,000,000	123,428,826	16,571,174
資産売却収入	0	69,582,683	▲ 69,582,683
付随事業・収益事業収入	242,551,000	186,007,486	56,543,514
受取利息・配当金収入	197,597,000	231,190,296	▲ 33,593,296
雑収入	284,620,000	80,736,352	203,883,648
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,154,000,000	1,451,512,000	▲ 297,512,000
その他の収入	285,000,000	314,472,002	▲ 29,472,002
資金収入調整勘定	▲ 1,750,000,000	▲ 1,552,937,372	▲ 197,062,628
前年度繰越支払資金	2,801,793,000	2,921,452,068	
収入の部合計	6,131,889,000	6,627,874,963	▲ 495,985,963
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	2,531,700,000	2,365,902,326	165,797,674
教育研究経費支出	689,200,000	657,001,185	32,198,815
管理経費支出	376,900,000	321,103,918	55,796,082
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	113,000,000	81,621,700	31,378,300
設備関係支出	85,000,000	14,555,526	70,444,474
資産運用支出	10,000,000	380,857,901	▲ 370,857,901
その他の支出	405,000,000	254,953,357	150,046,643
〔予備費〕	(0) 200,000,000		200,000,000
資金支出調整勘定	▲ 280,000,000	▲ 171,764,003	▲ 108,235,997
翌年度繰越支払資金	2,001,089,000	2,723,643,053	▲ 722,554,053
支出の部合計	6,131,889,000	6,627,874,963	▲ 495,985,963

活動区分資金収支計算書

令和 2年 4月 1日から

令和 3年 3月 31日まで

(単位 円)

科 目		金 額
教育活動による資金収支	収入	
	学生生徒等納付金収入	2,570,841,600
	手数料収入	22,881,794
	特別寄付金収入	41,268,228
	経常費等補助金収入	285,775,526
	付随事業収入	170,647,486
	雑収入	80,736,352
	教育活動資金収入計	3,172,150,986
	支出	
	人件費支出	2,365,902,326
	教育研究経費支出	657,001,185
	管理経費支出	321,103,918
	教育活動資金支出計	3,344,007,429
	差引	▲ 171,856,443
	調整勘定等	16,515,258
	教育活動資金収支差額	▲ 155,341,185
科 目		金 額
施設整備等活動による資金収支	収入	
	施設設備寄付金収入	2,962,300
	施設設備補助金収入	2,130,000
	施設設備売却収入	302,500
	施設設備等活動資金収入計	5,394,800
	支出	
	施設関係支出	81,621,700
	設備関係支出	14,555,526
	第2号基本金引当特定資産繰入支出	2,962,300
	施設設備等活動資金支出計	99,139,526
	差引	▲ 93,744,726
	調整勘定等	726,000
	施設整備等活動資金収支差額	▲ 93,018,726
	小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	▲ 248,359,911
科 目		金 額
その他の活動による資金収支	収入	
	借入金等収入	0
	その他の収入	231,529,145
	小計	231,529,145
	受取利息・配当金収入	231,190,296
	収益事業収入	15,360,000
	その他の活動資金収入計	478,079,441
	支出	
	借入金等返済支出	0
	第3号基本金引当特定資産繰入支出	8,801,700
	その他の支出	408,590,914
	小計	417,392,614
	借入金等利息支出	0
	その他の活動資金支出計	417,392,614
	差引	60,686,827
	調整勘定等	▲ 10,135,931
	その他の活動資金収支差額	50,550,896
	支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	▲ 197,809,015
	前年度繰越支払資金	2,921,452,068
	翌年度繰越支払資金	2,723,643,053

事業活動収支計算書

令和 2年 4月 1日 から

令和 3年 3月 31日 まで

(単位 円)

		科 目	予 算	決 算	差 異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,532,528,000	2,570,841,600	▲ 38,313,600
		手数料	23,800,000	22,881,794	918,206
		寄付金	16,000,000	41,268,228	▲ 25,268,228
		経常費等補助金	340,000,000	285,775,526	54,224,474
		国庫補助金	200,000,000	162,346,700	37,653,300
		地方公共団体補助金	140,000,000	123,428,826	16,571,174
		付随事業収入	227,200,000	170,647,486	56,552,514
		雑収入	284,620,000	80,736,352	203,883,648
		教育活動収入計	3,424,148,000	3,172,150,986	251,997,014
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		人件費	2,531,700,000	2,257,730,044	273,969,956
		教育研究経費	1,189,200,000	1,151,228,715	37,971,285
		管理経費	526,900,000	465,183,276	61,716,724
		徴収不能額等	1,000,000	0	1,000,000
		教育活動支出計	4,248,800,000	3,874,142,035	374,657,965
		教育活動収支差額	▲ 824,652,000	▲ 701,991,049	▲ 122,660,951
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		受取利息・配当金	197,597,000	231,190,296	▲ 33,593,296
		その他の教育活動外収入	15,351,000	15,360,000	▲ 9,000
		教育活動外収入計	212,948,000	246,550,296	▲ 33,602,296
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
		教育活動外収支差額	212,948,000	246,550,296	▲ 33,602,296
		経常収支差額	▲ 611,704,000	▲ 455,440,753	▲ 156,263,247
特別収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		雑収入	0	14,113,100	▲ 14,113,100
		資産売却差額	0	9,967,950	▲ 9,967,950
		その他の特別収入	4,500,000	5,451,465	▲ 951,465
		特別収入計	4,500,000	29,532,515	▲ 25,032,515
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産処分差額	0	19,807,106	▲ 19,807,106
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	0	19,807,106	▲ 19,807,106
		特別収支差額	4,500,000	9,725,409	▲ 5,225,409
		〔予備費〕	(0)		
			200,000,000		200,000,000
基本金組入前当年度収支差額			▲ 807,204,000	▲ 445,715,344	▲ 361,488,656
基本金組入額合計			▲ 198,000,000	▲ 67,249,078	▲ 130,750,922
当年度収支差額			▲ 1,005,204,000	▲ 512,964,422	▲ 492,239,578
前年度繰越収支差額			▲ 3,801,393,000	▲ 1,290,266,896	▲ 2,511,126,104
基本金取崩額			0	68,000,000	▲ 68,000,000
翌年度繰越収支差額			▲ 4,806,597,000	▲ 1,735,231,318	▲ 3,071,365,682
(参考)					
事業活動収入計			3,641,596,000	3,448,233,797	193,362,203
事業活動支出計			4,448,800,000	3,893,949,141	554,850,859

監 査 報 告 書

令和 3年 5月 21日

学校法人 武蔵野音楽学園

理 事 会 御中

学校法人 武蔵野音楽学園

監事

監事

岸田 謙
濱田 芳貴



私たちは、学校法人武蔵野音楽学園の監事として、私立学校法第37条第3項に基づいて同学園の令和2年度（令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び附属明細表）を含め、学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務の執行の状況について監査を行いました。

私たちは、理事会その他重要な会議に出席するほか理事から業務の報告を受け、重要な決裁書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手続を実施いたしました。また、私立学校振興助成法第14条第3項に基づき監査を実施した長谷川公認会計士事務所から監査の報告及び説明を受け、計算書類等に検討を加えました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産の状況若しくは理事の業務の執行の状況に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反するような重大な事実はないものと認めましたことを報告いたします。

以 上

監 査 報 告 書

令和 3年 5月 21日

学校法人 武蔵野音楽学園

評 議 員 会 御中

学校法人 武蔵野音楽学園

監事

岸田 潔 

監事

濱田 芳貴 

私たちは、学校法人武蔵野音楽学園の監事として、私立学校法第37条第3項に基づいて同学園の令和2年度（令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び附属明細表）を含め、学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務の執行の状況について監査を行いました。

私たちは、理事会その他重要な会議に出席するほか理事から業務の報告を受け、重要な決裁書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手続を実施いたしました。また、私立学校振興助成法第14条第3項に基づき監査を実施した長谷川公認会計士事務所から監査の報告及び説明を受け、計算書類等に検討を加えました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産の状況若しくは理事の業務の執行の状況に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反するような重大な事実はないものと認めましたことを報告いたします。

以 上